

## 神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部

### 平成30年度部門外活動実績報告

○特命教授（イノベーション創出プロモーター） 榎林 陽一

#### (1) 企業との戦略的協業の実現

神戸大学ポートアイランド構想の中核となる企業との戦略的協業の実現に向けて、国際がん医療・研究センター（ICCRC）とシスメックス社との大型共同研究テーマの選定および事業戦略策定等をステアリングコミッティ委員として推進し、以下に示す共同研究を支援した。

- ① バイオリソースセンタープロジェクト（平成30年度 7500万円）
- ② 手術ロボット研究プロジェクト（平成30年度 8000万円）
- ③ リキッドバイオプシープロジェクト（平成30年度 6000万円）
- ④ 難治性プレジジョン治療開発・研究プロジェクト（平成30年度 6000万円）

#### (2) 新たなイノベーション創出機会の評価

次世代医療基盤法の施行により急速に進展することが予想されている医療情報分野での大学発イノベーション創出について調査を行った。その結果、医療情報利活用を推進するためには、大学と地域自治体のリーダーシップによる先駆的な取り組みが新たなイノベーション創出に必要であると考えられた。

- ① 製薬企業、医療機器メーカー、情報IT系企業等の産業界は、医療情報の利活用に非常に旺盛な意欲を示している。特に、次世代医療法に基づく「認定匿名加工医療情報作成事業者」による匿名化医療情報への期待は非常に高い。
- ② 大学附属病院、大手民間病院等では電子カルテの導入が進み、容易に構造化できる大量の医療情報を保有している。また商用2次利用への提供にも非常に積極的であり、医療情報ビジネスを新規事業分野として注目している
- ③ 一方、医療情報提供者と活用希望者の間には大きなギャップがあり、大学・自治体の協力によって需要と供給を繋ぎ、医療情報の活用を推進する連携調整機関の創出が強く望まれている。

#### (3) その他

新たなイノベーション領域として産・学・官から注目を集めている領域の研究開発動向調査を実施した。

- ① 感覚領域（味覚・触覚・嗅覚・聴覚・視覚）
- ② デジタルヘルス領域（バーチャル治験・治療アプリケーションほか）
- ③ 老化研究（医薬品・サプリメントほか）

○学術研究員 片岡 徹

・PLC $\epsilon$  を分子標的としたがん治療薬及び抗炎症薬の開発研究について、AMED 次世代がん医療創生研究事業の支援の下に研究を進め、平成30年6月にIUBMB2018（国際生化学・分子生物学連合コンGRESS、ソウル、大韓民国）のシンポジウム “Cancer signaling and molecular target therapy” にて招待講演を行うとともに、9月に海外製薬企業と共同研究契約を締結した。

・Ras を分子標的としたがん治療薬の開発研究について、理化学研究所との共同研究及びAMED BINDS 事業の支援の下に研究を進め、平成30年11月に理研シンポジウム「第4回DMP（創薬・医療技術基盤プログラム）創薬ワークショップ」にて招待講演を行った。